

国道35号現地診断 (佐賀県有田町戸杓乙)

令和2年12月9日に国道35号13k700付近(有田町戸杓乙地先)【T035A210】の切土法面・自然斜面を対象に学識経験者、佐賀国道事務所職員及び防災エキスパートによる現地診断を実施した。対象箇所は老朽化した長大切土法面からのモルタル剥落、背後の自然斜面からの小落石等が懸念される箇所である。当該診断では、当該箇所の現時点の健全性、将来の安定性及びそれらを踏まえた対応策等について、現地の状況を詳細に把握するとともに、学識経験者等による有意な意見を聴取し、防災・維持管理上の課題解決の場とした。

出席者:福岡大学 佐藤教授

● テックドクターによる診断(令和2年12月9日)

【法面・斜面について】

- ・切土法面は、老朽化によるモルタル吹付に変状が多く、国道へのモルタル片等崩落が懸念される。
- ・上方自然斜面は、35°以上の急斜面で斜面内にはΦ0.1~0.3m程度の小転石・浮石が点在している。
- ・豪雨時の斜面浸食・小崩壊発生時、小動物の移動等により、小転石等が国道へ落下する可能性がある。
- ・国道沿いにフェンスがあり一定の機能は果たしているが、老朽化やクリアランス不足等で小落石の跳躍の可能性は否定できない。

【対策方針等について】

- ・上方斜面からの小落石、既設モルタル吹付からの剥離等の防止を目的として、ポケット式落石防護網等の待受型の防災対策が考えられる。

